

可燃ごみ減量に向けた取り組み

平成23年度地域懇談会資料

地域協働部 環境課

1

- H3. 4 堆肥化容器購入補助制度開始
- H6. 4 資源ごみ回収助成金制度(団体)の開始
- H10. 4 生ごみ処理機購入補助制度開始
- H14. 4 大口町資源リサイクルセンターの設置
- H14. 11 河北上郷地区において生ごみ回収開始
- H16. 11 河北エコステーション開設
- H17. 6 河北二ツ屋地区において生ごみ回収開始及び常時回収所の設置
- H17. 10 河北上郷地区に常時回収所の設置
- H17.11.26 大口町民会館にてごみ減量集会を開催**
- H18. 12 大口町有機資源保管所の設置
- H19. 4 大口町資源リサイクルセンターを移設
- H19. 7 さつきヶ丘常時回収所エコキューブの設置
- H20. 1 資源ごみ回収助成金の登録開始(事業所対象)
- H20. 1 モデル地区(下小口)においてスタンプカード制度実施
- H20. 4 全地区においてスタンプカード制度実施
- H20. 4 河北仲沖地区において生ごみ回収開始
- H20. 9 町内協力店舗において、レジ袋有料化を開始
- H21. 12 アビタ大口店において店舗内から排出される生ごみの堆肥化を実施
- H22. 5 有機資源保管所にて破砕機を使った剪定枝のチップ化を開始

2

生ごみの堆肥化(河北エコステーション)

河北エコステーション(食品廃棄物堆肥化施設)

平成16年11月築

木造平屋建て床面積60㎡

堆肥化機械を3台設置

1回300kg投入可能、投入後5日間で堆肥となる

可燃ごみ収集と同日の週2回生ごみを回収

完成した堆肥は月1回河北区へ配布

平成22年度生ごみ収集量・・・33.6t



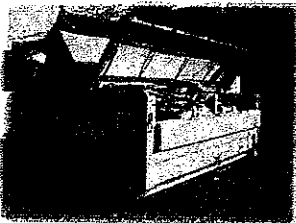
3

資源ごみ常時回収所



- ◆河北ニツ屋地区常時回収所(H17. 6～)
回収品目 ざつがみ類・ペットボトル類

- ◆河北上郷地区常時回収所(H17. 10～)
回収品目 ダンボール類・ざつがみ類・紙パック類・
容器包装プラスチック類・トレー発泡ス
チロール類・ペットボトル類



- ◆さつきヶ丘エコキューブ(H19. 7～)
回収品目 新聞類・雑誌類・ざつがみ類・ダンボール
類

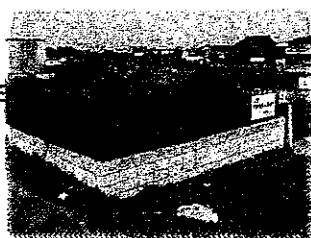
4

大口町有機資源保管所

開始年月 平成18年12月
収集品目 剪定枝・草・竹
収集日 火曜日・金曜日・日曜日
収集時間 午前9時～午後4時
(正午～午後1時除く)

・集められた剪定枝等は細かく破碎し
土壌改良材又はマルチング材として利用

平成22年度収集実績・・・339.48t
チップ町内利用実績 軽トラック80車 袋持参 48件



5

資源ごみ回収助成金制度

平成6年度より導入

区をはじめとした登録団体に対して、収集された資源に対して5円/kgの助成

経緯

- 町内の各団体にて行われていた資源回収において、回収された資源が逆有償となり活動ができなくなったため活動の継続を目的に導入
- 容り法施行に伴い平成12年度より、各区において不燃物収集に加え資源回収日を設け、各区へ助成
- 対象品目:紙類・布類を対象
- 平成20年度から、缶類・ペットボトル・びん類(化粧瓶類は除く)を追加

6

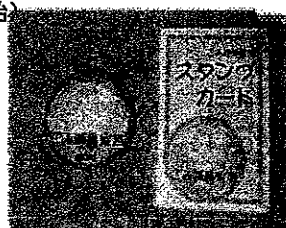
資源ごみ回収助成金交付状況

	H.18	H.19	H.20	H.21	H.22
秋田	467,890	408,890	409,150	350,645	309,565
豊田	483,555	450,785	486,310	421,580	357,170
大屋敷	389,590	337,155	375,385	298,215	290,175
外坪	213,185	193,220	207,075	179,370	158,245
河北	372,800	340,600	413,045	343,215	338,115
余野	1,070,035	844,040	768,585	599,910	569,835
上小口	380,685	309,945	350,515	256,545	237,560
中小口	344,985	413,550	382,135	324,880	267,665
下小口	720,030	594,765	596,590	507,495	469,705
垣田	202,250	170,905	183,065	151,035	140,715
さつきヶ丘	214,125	216,360	227,700	203,745	193,105
その他	1,798,840	1,822,095	2,235,263	2,391,938	2,373,533
合計	6,657,970	6,102,310	6,634,818	6,028,573	5,705,388

7

スタンプカード制度

- ・開 始 平成20年4月(同年1月より下小口区
に於いてモデル事業開始)
- ・対 象 ごみ減量に協力いただける世帯
へカードを交付
(有効期限 発行日から1年間)
- ・スタンプ(シール)について
地区不燃物集積場 2個
資源リサイクルセンター 1個
- ・景 品 トイレtpペーパー・減量型ごみ袋・ほかし・苗木・ショッ
ピングバック・堆肥化バケツ等
- ・報償金 スタンプ(シール)を72個すべて完了した場合3,000円
の報償金を交付



8

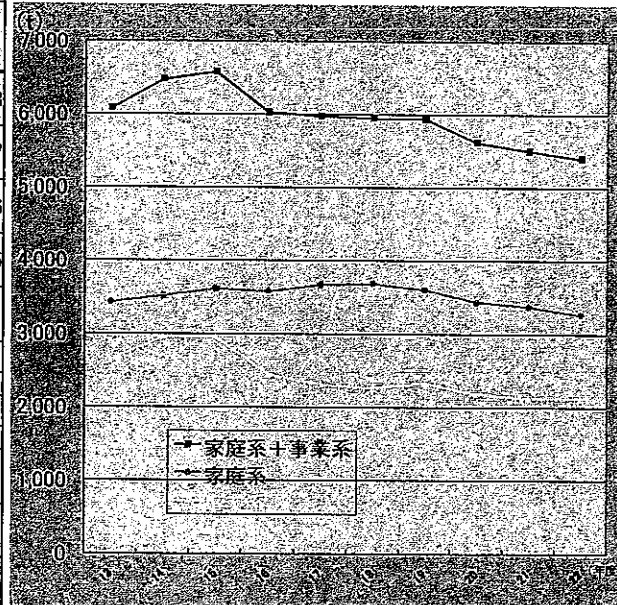
平成16年度比可燃ごみ推移

	家庭系:t	対前年比	事業系:t	対前年比	計:t	対前年比	対16年度比:t	16年度比
16年度	3,583		2,445		6,028			
17年度	3,667	2.34%	2,311	-5.48%	5,978	-0.83%	△50	△0.83%
18年度	3,688	0.02%	2,264	-2.03%	5,952	-0.43%	△76	△1.26%
19年度	3,605	-2.25%	2,334	3.09%	5,939	-0.22%	△89	△1.48%
20年度	3,437	-4.66%	2,182	-6.51%	5,619	-5.34%	△409	△6.79%
21年度	3,377	-1.77%	2,123	-2.70%	5,500	-2.12%	△528	△8.76%
22年度	3,269	-3.20%	2,127	0.19%	5,396	-1.89%	△632	△10.48%

9

年間の可燃ごみ焼却量の推移

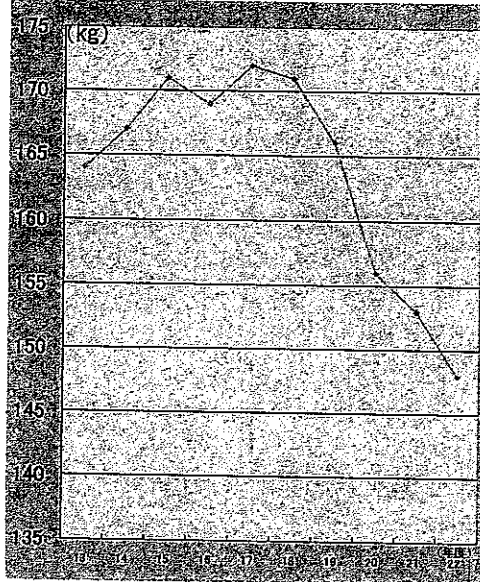
13	6,082	3,434	2,648
14	6,477	3,520	2,957
15	6,583	3,617	2,966
16	6,028	3,583	2,445
17	5,978	3,667	2,311
18	5,952	3,688	2,264
19	5,939	3,605	2,334
20	5,619	3,437	2,182
21	5,500	3,377	2,123
22	5,396	3,269	2,127



1人あたり年間の家庭系可燃ごみ焼却量の推移

年度	1人あたり年間焼却量 (kg)	焼却施設別焼却量 (kg)	焼却率 (%)
13	3,434	20,924	164
14	3,520	21,107	167
15	3,617	21,211	171
16	3,583	21,246	169
17	3,667	21,275	172
18	3,688	21,588	171
19	3,605	21,713	166
20	3,437	22,018	156
21	3,377	22,108	153
22	3,269	22,126	148

平成22年度末時点対16年度比△12.4%



2004年にノベル平和賞を受賞したケニアの環境副大臣 ワンガリ・マータイさん

「MOTTAINAI」

可燃ごみ焼却処理場の現状

地域協働部 環境課

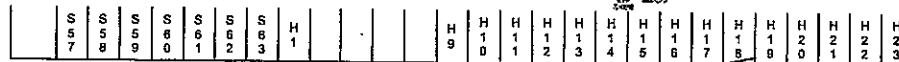
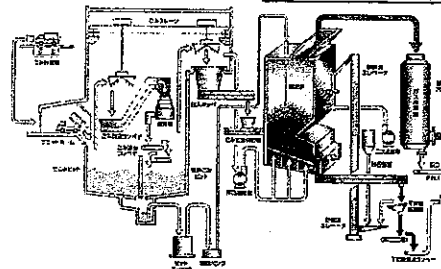
1

(1) 現状施設の状況

○江南丹羽環境管理組合 環境美化センター

処理能力	75t/24h × 2炉
処理方式	旋回流型流動床式
稼働開始	昭和57年11月
余熱利用	場内温水

① 焼却施設



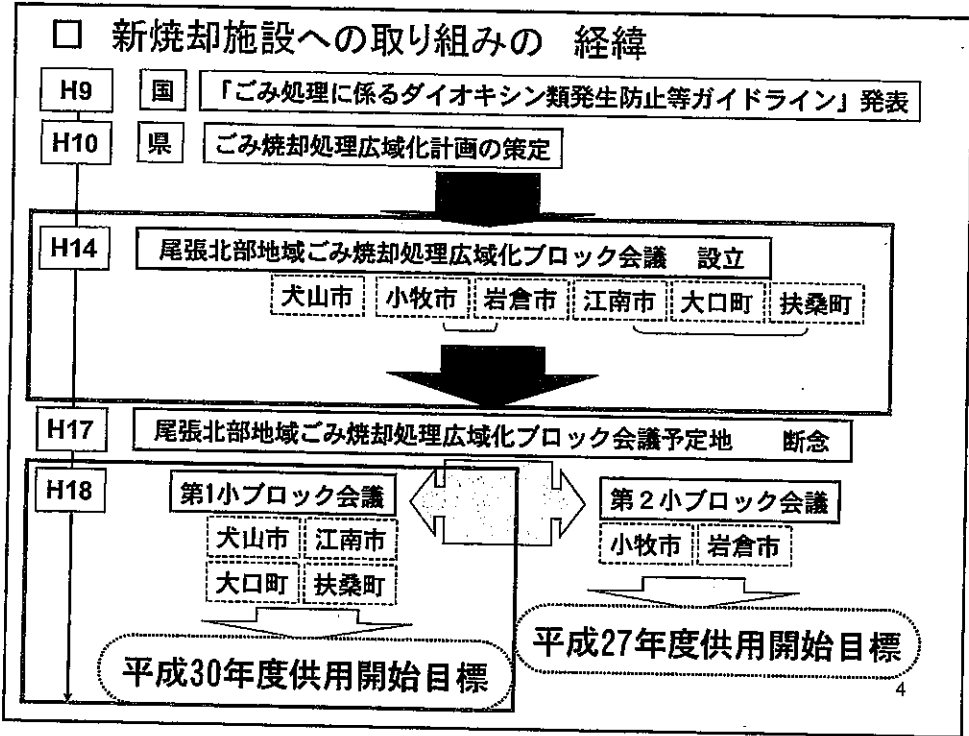
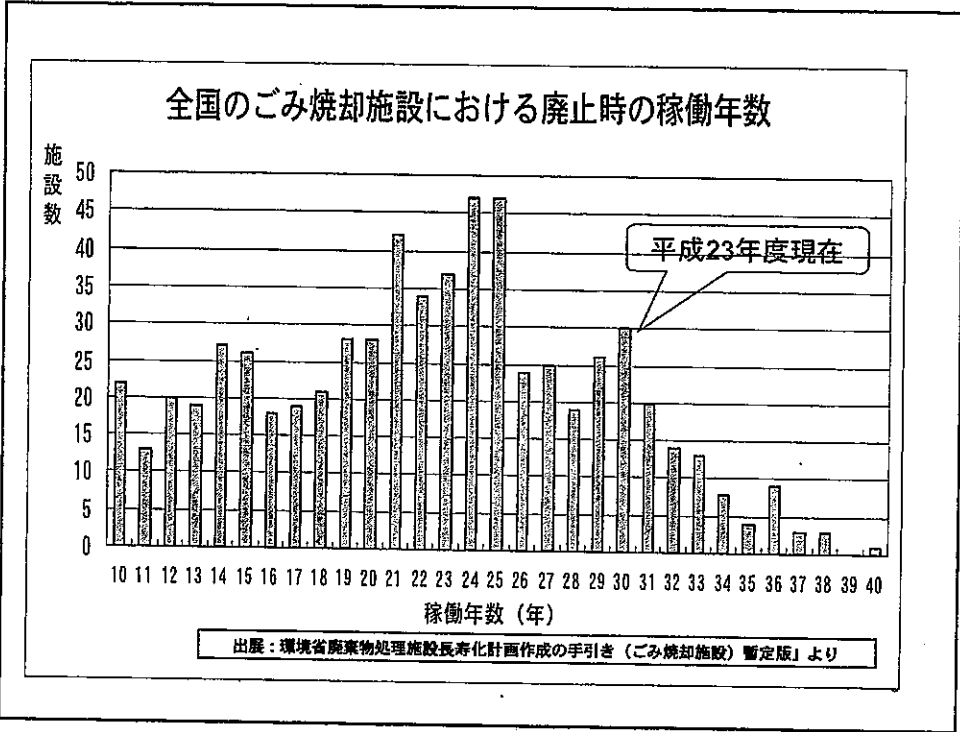
23年度現在30年

昭和57年11月現施設稼働

排ガス高度処理施設整備工事

基幹整備補修工事(21~23年)

2



□ 新ごみ処理施設の必要性

(1) 住民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上

住民の方々などの協力により、大口町のリサイクル率は上がっていますが、ごみ排出量の60%程度は焼却ごみであり、このごみを安全かつ衛生的に処理し、住民の生活環境の保全及び公衆衛生を向上させることが責務である。

(2) 安定したごみ処理施設の確保

現在の焼却施設の老朽化が進んでいる。これまでも大規模修繕や定期補修をしながら安全稼働を維持しているが、ごみを安定的に処理していくためにも、早期に新しい処理施設の整備が必要である。

(3) 循環型社会への取組

焼却により発生する熱エネルギーを有効に利用することや最新技術によるさらなる環境負荷を削減することなど、循環型社会の形成に向けて、人と環境にやさしい処理施設を整備していくことが使命である。

5

新ごみ処理施設建設候補地の 検討について

○ 候補地検討(H20.2.15～

○ 候補地検討委員会の検討

(H20.10.16～ H22.1.21)

13回)

6

新ごみ処理施設建設候補地の 二次検討結果内容

1. 自然環境に関する評価項目

候補地B(大口町)、候補地C(扶桑町)が2項目とも高い評価となり、他の2候補地と比較して優位性があります。

2. 社会環境に関する評価項目

候補地D(犬山市)がすべての項目で高い評価となり、他の3候補地と比較してかなりの優位性があります。

7

3. 経済性に関する評価項目

候補地A(江南市)・候補地B(大口町)・候補地C(扶桑町)が3項目以上で高い評価となり、その結果として、候補地D(犬山市)が他の候補地と比較して低い評価となりましたが、これは維持管理費(ごみ運搬費)における評価が低いためと考える。

以上の様に3つの評価項目においては、特定の候補地が相対的優位性を持つという評価結果を示すことができた。

8

○この結果を踏まえると、3つの評価項目の内いずれかに重点を置けば、優位性を示す候補地を絞り込むことが可能となる。

○従って、今後は評価項目の優先順位を決定すること、地元住民理解度を把握することが課題となる。

9

③第1小ブロック会議での決定

開催日	検討内容
平成22年1月14日	◆全体報告会を開催し、新ごみ処理施設の事業計画、候補地の検討状況等について報告、質疑応答
平成22年1月21日	◆候補地検討委員会より二次検討結果の報告を受ける



平成22年2月4日	◆候補地検討委員会の検討結果を受けて、地元説明会の開催も含めて各市町で判断することを確認
平成22年3月25日	◆候補地を2カ所程度に絞り込むことを協議

10

